

# 集中豪雨に備える

特集  
もしもの不安に備える



▲市消防団と宗像地区消防本部が日蔭野の西郷川沿いで6月11日に実施した合同水防訓練

異常気象という言葉をもよく耳にします。福岡県南部などに大きな爪跡を残し、50人以上の死傷者を出した平成24年7月の九州北部豪雨災害は、記憶に新しいと思います。特に梅雨末期の集中豪雨には、十分な備えが必要です。

## 突然の豪雨 短時間で被害も

急激な豪雨は、雨が降り出してから2時間から3時間の内に河川氾濫や土砂災害などを引き起こします。災害が発生してから対応したのでは間に合いません。普段からの備えと、災害警

戒期からの早めの備えが必要です。加えて、災害はいつ発生するか分かりません。非常持ち出し品の用意などをしており、避難勧告が出たら迷うことなく避難しましょう。また、夜間に災害が発生する場合もありますので、予測情報による早めの避難も考えておく必要があります。

## 大規模災害時は すぐに助けてもらえない

土砂災害や地震など大規模な災害が発生したとき、直ちに消防署や警察などの救助、すなわち「公助」が駆け付けられるとは限りません。平成26年8月に広島で発生した土砂災害は、災害現場での大規模な2次被害もあり、公助である救助をなかなか進められず、結果として救助隊も含めて100人以上の死傷者を出しました。平成7年1月に発生したマグニチュード7.3の地震による大規模地震災害、阪神・淡路大震災でも、救助する側の行政機関が被災していたこともあり、公助の割合はわずか2%でした。そこで大切なのは、自ら備える「自助」と地域社会みんなが助け合う「共助」です。最近では、向こう三軒両隣で助け合う「近助」という言葉も使われだしました。皆さんが住んでいる地域の自治会や自主防災組織、郷づくり推進協議会などでは、この「近助」「共助」による防災力強化のため、避難訓練などの各種取り組みを行なっています。ぜひ参加して、積極的に取り組んでください。

## あなたの家は 土砂災害警戒区域？

梅雨末期によく発生する豪雨災害の恐ろしさの一つに、雨に伴う土砂の崩壊があります。豪雨で命を落とすケースのほとんどが、土砂災害です。特に、福津市防災マップで土砂災害警戒区域に指定されている場所は、注意が必要です。警戒区域では、避難勧告などが発令されなくても「危ないかな」と思ったら、迷うことなく、すぐに自主避難してください。



▲もしものに備えて非常持出袋を準備しておきましょう



福津市消防団  
小林富美 団長 58歳

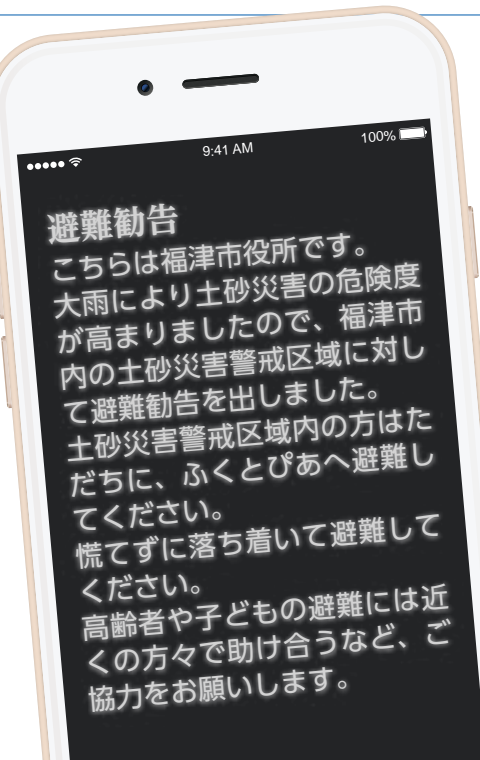
宗像地区消防本部  
篠原富樹 福間分署長 52歳

### 団員も豪雨に備えています

先日、団員たちは休日にもかかわらず、豪雨災害に備えて市や消防署員と合同で土のう積みやシート張り工法訓練等を行いました。

### 救助技術も磨いています

入梅を前に市や県の関係機関と西郷川の氾濫危険箇所を回ったほか、消防署員はもしものに備え救助技術も磨いています。





# ミサイルに備える

災害に備えるためには、情報を得ることが重要です。市には、消防庁が配信する緊急情報を瞬時に市民に配信する全国瞬時警報システム「Jアラート」があります。災害だけでなく、有事の際にも、市内各所の防災行政無線（屋外拡声子局、戸別受信機）を通じて、瞬時に警戒や避難を呼び掛けます。

## 防災行政無線やエリアメールなどで瞬時に

Jアラートは、人工衛星と市町村の防災行政無線を利用して、緊急情報を住民へ瞬時に伝達するシステムです。対処に時間的な余裕がない大規模な地震や津波などの自然災害や、弾道ミサイル攻撃など国民保護に関する情報を「国から住民まで直接、瞬時に」伝達することができます。という点が最大の特徴です。導入している福津市でも、有事の際は防災行政無線で瞬時に

警戒や避難を呼び掛けます。

## ミサイル発射時は「ブ、ブーン」という音が

北朝鮮のミサイルに関しては、福津市が、注意が必要な地域と予測されるときには、防災行政無線のスピーカーから「ブ、ブーン」という聞きなれない電子音のサイレンが流れます。その後「ミサイル発射。ミサイル発射。北朝鮮からミサイルが発射された模様です。頑丈な建物や地下に避難してください」と音声で発射情報を伝達し、避

難を呼びかけます。

市の防災行政無線は、現在、市内全域に82基の屋外拡声子局と、自治会長宅など約170か所に戸別受信機を設置。数多くの機器を設置することで、有事の際には警告や避難をより多くの人に呼び掛けられるように努めています。しかし、家の防音設備がしっかりしていたり、雨が激しい豪雨時であったり、あるいは防災行政無線の音が届かない地域であったりと、さまざまな理由で緊急情報が聞こえないこともあります。そのような場合であっても、防災行政無線の緊急情報と同時に、携帯電話やスマートフォンにエリアメール・緊急速報メールが配信される仕組みになっています。

問い合わせ 市防災企画課 ☎ 43・8107、県防災企画課 ☎ 092・643・3123

※1 消防庁から携帯大手事業者（NTTドコモ、KDDI、ソフトバンクなど）を通じて配信します。その他のキャリアについては、それぞれお問い合わせください

◀平成28年2月に沖縄県内で実際に配信されたエリアメール・緊急速報メール



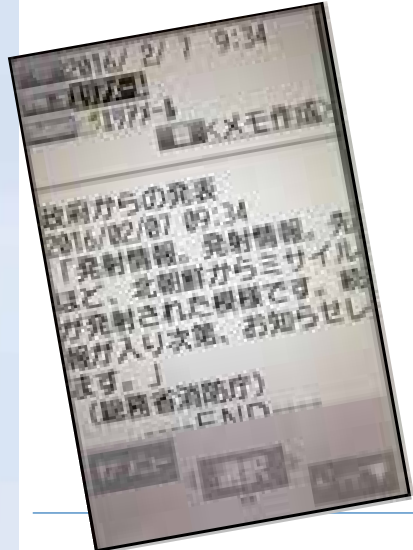
市防災企画課 木原士郎 防災危機管理専門監 59歳

**度重なるミサイル発射実験**  
北朝鮮は過去に例を見ない頻度でミサイルを発射しています。もしもに備え、県内でも大野城市や春日市、吉富町で訓練を行いました。

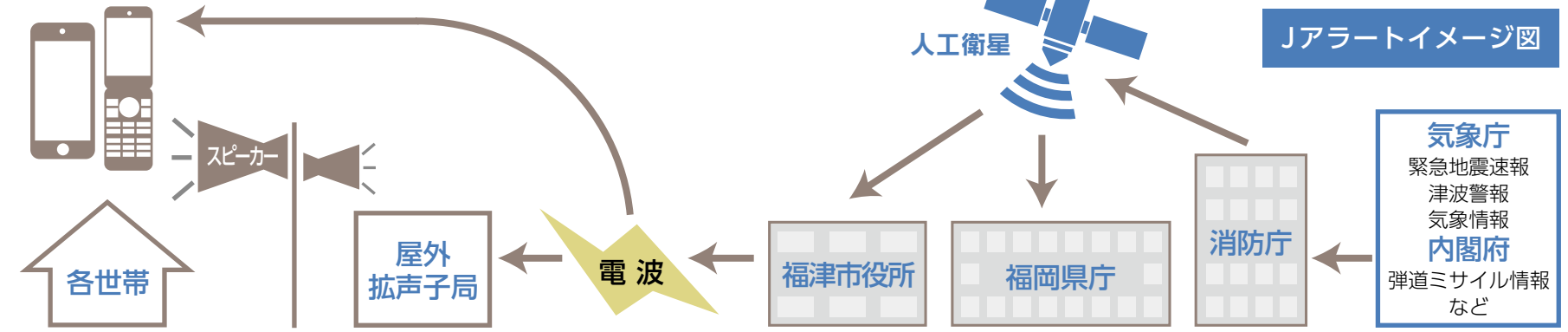


市防災安全課 堀田典宏 課長 52歳

**重要な情報伝達や対処方法**  
災害同様、北朝鮮のミサイルも万が一かもしれませんが、情報伝達の仕組みや対処方法などをまず知っていただきたいですね。



携帯電話やスマートフォン



特集 もしもの不安に備える

## 北朝鮮の弾道ミサイル



内閣官房ホームページの国民保護ポータルサイトに、ミサイル関連のQ&Aが掲載してあります。一部を紹介いたします。

**Q** ミサイルは発射から何分位で日本に飛んでくるのでしょうか。

**A** 北朝鮮から弾道ミサイルが発射され、日本に飛来する場合、極めて短時間で日本に飛来することが予想されます。例えば、平成28年2月7日に北朝鮮西岸から発射された弾道ミサイルは、約10分後に、発射場所から約1,600km離れた沖縄県先島諸島上空を通過しています。

なお、弾道ミサイルの種類や発射の方法、発射場所等により日本へ飛来するまでの時間は異なります。

**Q** 「ミサイルが落下する可能性がある」との情報伝達があった場合は、どうすれば良いのでしょうか。

ここはポイント

**A** 【屋外にいる場合】 市内や市外など、どの地域にいるかにもよりますが、近くのできるだけ頑丈な建物や地下に避難してください。近くに適当な建物がない場合は、物陰に身を隠すか地面に伏せて、頭部を守ってください。

【屋内にいる場合】 できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋へ移動してください。

